

社会医学系専門医制度(JBPHSM)ZENHO通信(No.9)

平成 31 年 2 月 25 日発行
全国保健所長会

今回は、全国保健所長会研修会での指導医講習会（シンポジウム）の報告と、特集号として、平成 31 年 1 月 27 日に開催した「公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会」で、話題となった香川県での取組について報告いただきました。

○社会医学系専門医指導医講習会の実施報告

（東京：H31 年 1 月 28 日開催）

（記録：西田敏秀：宮崎市保健所長：確保育成委員会委員）

平成 31 年 1 月 28 日、タワーホール船堀において、全国保健所長会研修会にあわせて社会医学系専門医指導医講習会が開催されました。今回の講習会のテーマは、「行政プログラムにおける大学等との連携」で、専攻医、指導医の 3 人の先生方に、それぞれの立場から発表をしていただきました。

まず、福岡県田川保健所長の中村泰久先生から、福岡県の社会医学系専門医研修プログラムについてのご紹介がありました。福岡県のプログラムについては、事務局が保健所長会にあるのが特徴で、県内に医学部のある 4 大学が全てが研修連携施設として、また、県内の全ての保健所設置 4 市もプログラムに参加しており、副分野の研修については、産業・環境が産業医科大学、医療が九州大学との連携で行われています。

実際に専攻医を指導するなかで気を付けていることとして、こまめにコミュニケーションを取ることや、専攻医の担当係以外の案件も経験させるため、他の職員への理解を得ることなどを挙げられました。

次に、専攻医である田川保健所の木村竜太先生から、福岡県プログラム研修の実際をお話いただきました。福岡県では、保健福祉行政研修として毎月一回事例検討会や講話、現場見学を行っており、研修の一部は専攻医の「医療機関での学習」や、指導医の資格更新の K 単位として認められています。主分野の異なる専攻医も参加しており、意見交換等、専攻医同士の交流の場としても活用されているようです。

福島県県北保健所長の加藤清司先生からは、福島県のプログラムのご紹介がありました。県立医科大と県内 3 中核市との連携プログラムで、大学の学位取得や MPH 取得可能なコースが用意されているという特徴があります。大学の健康増進センター、衛生学・予防医学講座、保健所における 3 人の専攻医の現在の研修状況を交えてご紹介いただきました。大学の専攻医を中核市保健所で研修させる際の身分などの課題はありますが、概ね問題なく研修できているとのことでした。

総合討論では、専門医制度によるメリットとして、研修プログラムがあることによって、具体的なキャリアパスが専攻医に示せること、専攻医同士で仲間づくりができ、孤立防止につながることに、専攻医のための研修を用意することで、指導医の単位取得にもつながること、公衆衛生を見直すきっかけになったことなどが挙げられました。

最後に社会医学系専門医協会の宇田英典理事長から、2 年間で 73 プログラム中 43 のプログラムで専攻医 228 人が登録し、主分野は産業・大学・行政で 3 分の 1 くらいずつであることと、社会医学系専門医制度の今後として、個人の資質向上、人材育成だけでなく、8 学会 6 団体が連携して新しい公衆衛生を作っていくことが求められているとお話いただきました。

全国保健所長会 社会医学系専門医協会指導医講習会（平成 31 年 1 月 28 日）

テーマ：行政プログラムにおける大学等との連携によるシンポジウム

【座長】福島県北筑後保健所 所長 宮崎 親

（福島県社会医学系専門研修プログラム統括責任者）

【シンポジスト】

○プログラム事務局と担当指導医の立場から 福島県田川保健所 所長 中村 泰久

ー福島県社会医学系専門研修プログラム（2017 年 3 月 18 日認定）

○専攻医の立場から 福島県田川保健所健康増進課精神保健係 木村 竜太

ー福島県社会医学系専門研修プログラム（2017 年 3 月 18 日認定）

○大学と連携したプログラムにおける専攻医の育成について

福島県県北保健所 所長 加藤 清司

ー福島県社会医学系専門医研修プログラム（2017 年 3 月 18 日認定）

○各地域での「公衆衛生医師の確保と育成に関する取組」について、報告していただきたいと思っておりますので、情報をお寄せください。よろしくお願ひします。

発行責任者：清古（確保育成委員会）